

未広地区の計画づくり

地区の特性

未広地区は、鶴見川の河口に位置し、大部分が昭和初期までに埋め立てられました。現在、地区内に立地している事業所の多くは、当時からこの地で操業しています。

JR 鶴見線 鶴見小野駅、弁天橋駅及び浅野駅が地区の玄関口で、市民利用施設「ふれーゆ」に至るバス通り（未広町プロムナード）がこの地域の交通軸となっています。

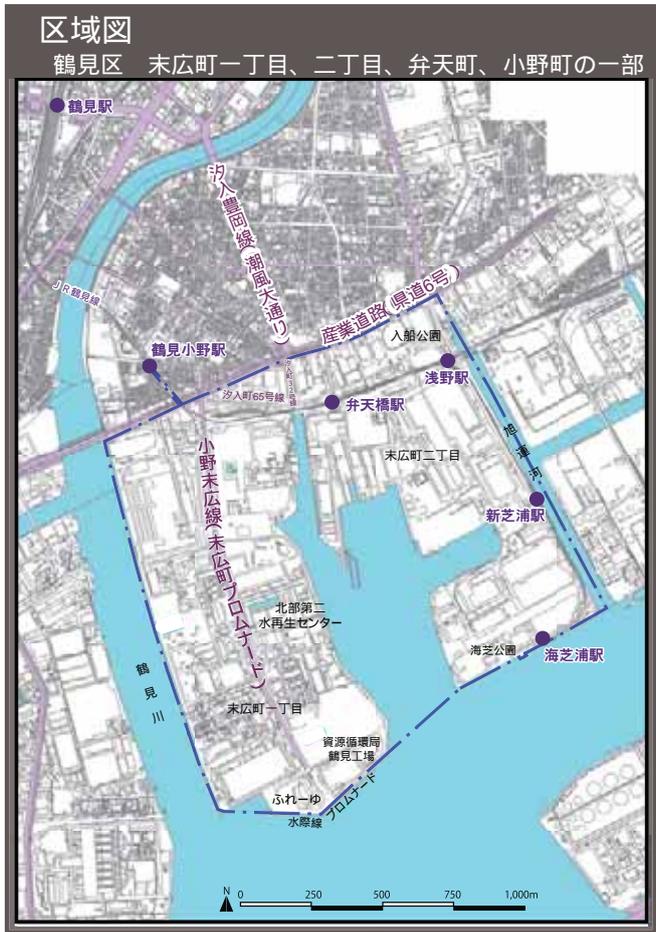
未広町プロムナード沿いには、大規模な事業所、理化学研究所、環境エネルギー館等が立地し、「横浜サイエンスフロンティア地区」として、まとまりのある産業地区を形成しています。

地区の緑の魅力

主な緑資源としては、水再生センターの環境保全林があり、沿道や鶴見線沿線につながる環境保全林の樹林帯と、未広町プロムナードのゆったりした歩道及び植栽帯とあわせて、地区の魅力となっています。

さらに、水際線プロムナードや海芝浦駅、東芝・海芝公園からは、広々とした東京湾の水面と、目の前の鶴見つばさ橋・京浜運河を活発に行き来する自動車や大型船の様子を眺めることができ、市民が海辺に親しめる地区として期待されています。

また、「JFE トンボみち」や環境エネルギー館「ワンダー田んぼ」では、緑地が公開され、生き物の生息環境づくりが進められています。



民有公開緑地の維持管理・エコアップ活動PR
(JFE トンボみちファンクラブ)

地区の諸元

地区面積：323ha（水面を含む）
 就業者数：約 8,800 人（平成 18 年事業所統計調査）
 用途地域：工業専用地域、工業地域

緑やまちづくりに関する既往の計画や活動等：
 臨港地区
 京浜臨海部再編整備マスタープラン（平成 9 年）
 京浜の森づくり未広地区協働緑化宣言（平成 17 年）
 京浜の森づくり未広地区緑化計画（平成 17 年）
 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区

計画策定の母体となった地元の組織：
 未広地区協働緑化宣言関係企業等

既存の緑資源の状況



事業所前面を彩る
フラワーロード事業
(鶴見曹達)



更新が進む事業所施設
(旭硝子)



雰囲気のよい駅舎と
民間整備による公開緑地
(JR 東日本、JFE エンジニアリング)



粗放的管理による
草原ビオトープ
(入船公園)



ゆったりした歩道と
ボリュームある沿道緑地
(末広町プロムナード、
北部第二水再生センター)



子どもたちが育てた田んぼ
(東京ガス・環境エネルギー館)



環境教育が行われている
屋上の森
(東京ガス・環境エネルギー館)



優れた眺望の
民間整備による公開緑地
(東芝・海芝公園)

地区の緑の課題

これまでのものづくり産業から研究開発機能へ移行していくサイエンスフロンティア地区にふさわしい緑の環境づくりが求められていますが、既存事業所の敷地内緑化には限界があります。

地域住民との交流を主眼とした立地企業による緑地の公開及び緑化活動が進められていますが、そうした活動の中で、トンボ池等の維持管理、野菜・花壇づくり等、専門的技術が求められています。

植栽・整備後 30 年以上が経過した環境保全林等では、樹高が高くなりすぎて維持管理に支障が出てきています。

海・河口・運河を「市民に身近な水辺」として緑化推進することが求められていますが、水際線のほとんどは工場等の民有護岸で、水際に近づくことが難しい状況です。また、直立護岸のため、人工干潟や砂礫地等、海のエコアップによる自然再生及び水辺の生物多様性の保全策が難しい状況です。

鶴見区の「フラワーロード事業」として、地先企業が道路植栽帯の花壇を維持管理していますが、花期は限定されているため、端境期には殺風景な景観になりがちです。

計画策定のプロセス

横浜市の呼び掛けに応じて、平成 17 年の「京浜の森づくり末広地区協働緑化宣言」に署名した 10 事業所・団体に加え、地域で活動している市民ボランティアの代表が集まり、宣言以降の地域の動向を確認するとともに、将来の末広地区を見据えた計画に更新する検討作業を行いました。各回の検討会で出された意見については、逐次解決に向けた調整が行われました。また、地区の緑地等の見学を行い、参加者それぞれが感じている問題箇所や既存資源の状況を確認し、意見を共有しました。

検討会は、平成 23 年 7 月から 5 回開催され、討議内容は、緑のまちづくり通信として取りまとめ、計画を策定するための意見調整に活用しました。



バスツアー後の感想の共有と意見交換

末広地区の地域緑化計画

緑化の方針

「京浜の森づくり」を先導する地区として、豊かな環境の産業拠点づくりに向け、地域の緑や海に開かれた水際空間などの魅力を活かして、緑と水と生きものが相乗して奏でる協奏曲が聞こえてくる地域環境を形成するため、公・民の協働による「地域緑のまちづくり事業」に取り組みます。

公・民が共有する「地域緑化計画」に基づき、公園緑地及び公共施設の緑化と、工場等の私有地の緑化整備及びそれぞれの維持管理活動をあわせて、「地域の緑」として育て「緑の将来像」の実現をめざします。

公共施設や私有地の緑の拡充・活用を企業・市民・行政の協働により展開し、地域での多様な環境行動の連携を図ります。

緑化整備計画

1) 緑量の確保

京浜臨海部の産業拠点にふさわしい地区環境を創出するため、公・民の協働により、公共施設と工場等の私有地の緑化整備を結びつけ、まとまりのある緑を確保します。

2) 緑の質の向上

緑の多様な効用を活かして、地区の魅力や海辺を活かした就業環境づくり等を進めるため、JR 鶴見線沿いのエコアップ緑地や環境保全林を健全で持続性のある緑として育て、地区の自然環境を復元する緑地拡充を進めます。

3) 緑のつながりの形成

入船公園や末広町プロムナードなどの公共施設の緑と隣接する私有地の多様な緑の効用の相乗効果とつながりを強めて、緑の骨格を形成します。

「地域の緑」として優先的に緑化すべき5つの項目を設定し、公共施設と私有地、それぞれの緑を適切に配置していきます。

「地域の緑」として優先的に緑化すべき5つの項目

項目	緑化の内容
沿道の緑化	海に広がる地域の特性を活かして、緑あふれる沿道景観を形成し、就業者や来訪者にうるおいをあたえる緑の環境をつくります。
	JR 鶴見線沿いや水際に地区の緑の骨格としてのまとまりある緑地を確保していきます。
身近な水辺等の緑化	つばさ橋から見える海辺の緑化などにより、市民が利用できる眺望の良い水際空間の緑のつながりをつくります。
	市民が東京湾や鶴見川等を身近に感じられる水辺の緑化を推進します。水辺を眺められる屋上の緑化を進めます。
公開緑地等	水際等での緑地を確保し、地域交流の場として公開していきます。
	駅前など、通勤路周辺での潤い空間を創出し、歩行者環境の整備を進めます。
エコアップ緑地	地域の樹種を中心にした緑化を進め、持続性の高い樹林地等の緑地を整備します。
	健全に緑が生育できるよう客土や剪定枝葉の堆肥化などにより土壌条件を整えていきます。
	高木、中低木、草花、地被植物、芝等を効果的に組み合わせ、より自然な緑地空間を形成します。
協働緑化	生物多様性や生態系に配慮した緑地やビオトープづくりを進めます。
	市民植樹など、協働による緑化活動の場としての緑地整備を進めます。
	自然観察会などの場として、緑地の確保を進めます。
	公共の緑の担い手の育成の場としての緑化を進めます。

